ポスト２０２２年における
農への新たな取り組み

第２部
パネルディスカッションの進め方と論点

コーディネーター
大阪府立大学　名誉教授
LAまちづくり研究所主宰　増田　昇

Step・１　パネリストからの話題提供：３０分

「市民の暮らしの中での新たな農との関わり方とそれを支える制度」

佐藤　啓二（都市農地活用支援センター常務理事）

「農的要素を取り入れた新たな都市開発・開発形態のあり方」

大木　祐悟（定期借地権推進協議会運営委員長）

Step・２　ディスカッション：４５分

「会場並びにリモート参加者からの質疑や提言への応答とともに、パネリスト間での議論」

Step・３　まとめ：１５分

「農への新たな取り組み」

パネルディスカッションの論点

論点・１（主に大木の話題提供をベースに）

- 特定生産緑地に移行しなかった農地（約１割）や移行したものの担い手問題等を背景に流動化する農地の“農を取り入れた新たな開発形態”
- 農の新たな生産形態や機能等を活用した新たな開発形態
- 中長期の農地保全を考慮した新たな開発形態

注）開発規模は数百m^2～1,000m^2の小規模、3,000m^2程度の中規模が中心

論点・２（主に佐藤の話題提供をベースに）

- 特定生産緑地に移行した農地（約９割）を持続させるための「農」の新たな活かし方や新たな展開方法
- 人口減少社会の中で近年急増する“空き地や低利用空間”を対象とした農地では無い新たな農的空間について
- “市民緑農地”支える新たな法制度とは

注）市民緑農地：従来の生産緑地に代る新たな概念としての都市農地